豊崎初 大型ホテル開業

グランビューガーデン沖縄

豊見城 関係者100人招き式典

【豊見城】富士開発（小尾一社長）は二十二日、豊見城市豊崎に都市型リゾートホテル「ホテルグランビューガーデン沖縄」をオープンした。那覇空港や那覇市街地に近く、宅地開発や大型商業施設の集積が進む豊崎地区初の大型ホテル。同日、富士開発の小尾洸会長らがホテルに関係者約百人を招き、開業記念式典を開いた。

九階建てで客室数は百六十八室。屋外プールや露天風呂付き大浴場、レストランなどを備え、リゾート型とビジネス型の両方に対応できる施設となっている。料金はシングルが一万五百円、ツインが二万一千―二万三千円。小尾会長は「このホテルは沖縄の玄関口。観光客に喜んでもらえるホテルになるよう努力したい」と話した。

ホテルグランビューガーデン沖縄のオープンを祝う関係者ら＝22日、豊見城市豊崎のホテルグランビューガーデン沖縄

「客、目に見えて減った」「今は

約700人の県内各種団体・企業の代表者が参加しためんそーれ沖縄県民運動推進協議会の臨時大会＝22日、沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ

機運盛り上げに課題も

市の観光施設では団体が8―10%減、客単価も下がった。

担当者は「旅行社の企画する団体、企業の慰安旅行の減少が激しい。円高で海外に流れている面もあるのでは」と話す。

「御菓子御殿」を運営するお菓子のポルシェの島袋昌明さんは「団体、レンタカーともに足が止まり、売り上げも落ちている。特に二月がひどかった。今は耐えるしかない」と語る。

宮里一郎県ホテル旅館生活衛生同業組合理事長は「施設によっては前年同期に比べ30%以上客が減っている。県内ホテルは供給過多で、このままでは経営を続けられなくなる業者も出てくる」と窮状を訴える。

県内ホテル関係者は「既に値下げ競争が激化し、大

む。しかし実態は他産業には伝わりにくい」と吐露する。

大会について「各業種が厳しい状況を発表し、危機感を共有すれば、県経済界全体に一体感が生まれ、観光危機打開に向けた機運が盛り上がる」と話す。

協議会の総会は例年、八月に五十人規模で開く。県の担当者は規模拡大と前倒し開催の意義を「早急に官民一体で取り組む体制を構築する」と強調。

一方でショーなどについては「観光客の立場で見ると、こぶしを振り上げる大会の在り方はどうか。観光客を迎えるホスピタリティー（もてなし）を考える機会にしたい」と説明する。

沖縄観光コンベンションビューローの保坂好泰常務理事は「厳しいという認識は既に共有されている。観光はマインドが影響するので、あえて明るくいこうと企画した」と話し、沖縄観光だけが落ち込んだ米中枢同時テロ後と違い、市場を意識した大会にする必要があったと強調する。

宮里理事長は「大会を機に、他産業の人々も危機的状況を自分の問題としてとらえ、一体となって盛り上げる流れをつくってほしい」と、大会を起点とした継続的な取り組みに期待した。（島洋子、宮城隆尋）

仲井真弘多知事

「こ
界全体
も影響
ろいろ
ツ、空
しく見
飛躍へ

平良哲氏
（OCVB会長）

復帰
め２月
に協力
機意識
ならな
を挙げ
ること

前田裕子氏
（観光業界代表）

問題
考え、
ーズン
るく元
行動に
くくる
ろえ、

呉屋守将氏
（経済団体代表）

世界
ーディ
県経済
る風評
界は団
で観光
難局を

ロワジールホテル&スパタワー那覇

7月17日開業

チサンリゾートも入居

ホテル運営会社のソラーレホテルズアンドリゾーツ（東京、A・G・ヴィリリ社長）は二十一日、那覇市のロワジールホテル那覇の隣に建設中の新館と現在のホテルを併せ、七月十七日に「ロワジールホテル&スパタワー那覇」に名称変更すると発表した。新館（十二階建て）の三―六階にはホテル「チサンリゾート那覇」（九十六室）が入り、七月十七日に開業する。

新館は七―十二階に客室（八十九室）が入り、二階は九百九十五平方㍍のフロア全体をスパ施設（天然温泉大浴場、スパトリートメント施設）とする。三階部分の渡り廊下で本館（現ホテル）とつなぐ。

外壁に琉球石灰岩を使い、内装は紅型をアレンジしたデザインにする。客室は平均四十平方㍍と広めで、琉球ガラスなどの小物で沖縄色を打ち出す。十一―十二階のオーシャンビュールームには天然温泉のビューバスを設置する。客室単価は四万八千―六万五千円。宴会場や駐車場（四十六台）も備える。

チサンリゾートは、同ブランド四件目の国内出店。チェックインフロアは新館一階。客室は三―六階で平均二十平方㍍。インテリアは沖縄の太陽と海をイメージしたリゾート感を打ち出す。宴会場も備える。

同社はチサンリゾート那覇の宿泊客がロワジールホテル&スパタワー那覇のスパやプール、レストランを利用できるパッケージプランを販売する予定。

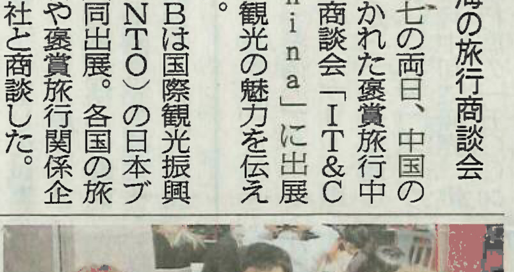
県、OCVB中国で沖縄PR

観光の魅力訴え 上海の旅行商談会

沖縄観光コンベンションビューロー（OCVB）は十六、十七の両日、中国の上海で開かれた褒賞旅行中心の旅行商談会「IT&CM China」に出展し、沖縄観光の魅力を伝えた＝写真。

OCVBは国際観光振興機構（JNTO）の日本ブースに共同出展。各国の旅行代理店や褒賞旅行関係企業二十二社と商談した。

OCVBによると、上海からは二〇〇八年度、約二百八十人の団体が来県するなど、不況下でも大規模な褒賞旅行が実施された。OCVBは中国市場を重点地域として、今後も海外事務所を通じたツアー誘致活動を続ける。担当者は「今後は中国市場に関する県内企業向けの勉強会なども検討したい」と話した。



成都市との連携確認

観光部局で意見交換

沖縄観光のパンフレットなどを手に取る来場者ら＝17日、中国四川省成都市（沖縄観光コンベンションビューロー提供）

県と沖縄観光コンベンションビューロー（OCVB）は十六―十八日、中国四川省成都市で開かれた「第七回中国国際ソフトウエア博覧会」会場で資料を配り、沖縄観光の魅力を訴えた。

十七日には勝目和夫観光商工部長らが成都市旅游局を訪ね、母涛（ムータオ）副局長らと意見交換した。

面談には県上海事務所の仲里和之所長やインデックス沖縄の栗田智明社長らも同行した。OCVB職員によると、面談では今後、情報通信（IT）産業や観光産業、行政を含め双方で情報交換を密にし、連携を深めることを確認した。

博覧会場ではOCVB職員らがブースを設置し、沖縄観光の魅力を訴える中国語のパンフレットなどを来場者に配った。

「危ない会社」無料セミナー

あす、帝国データバンク

帝国データバンク沖縄支店は二十四日、「危ない会社の見分け方」と題した無料セミナーを那覇市久米の県青年会館で開く。講師は同社東京支社情報部長の江口一樹氏。時間は午後三時半から五時まで。

江口氏は新聞社勤務を経て同社に入社。コラムや解説で新聞、テレビに登場するなど活躍している。講演では全国企業倒産の実態や兆候をレクチャーする。

問い合わせ、申し込みは帝国データバンク沖縄支店☎098（861）6851。

経済フラッシュ

新「アネッサ」県内でPR

資生堂の藤原さん

○…資生堂（東京、前田新造社長）の国内化粧品事業担当の藤原貴之さんが22日、琉球新報社を訪れ、肌に優しい新成分ヒマラヤ産リンドウエキスを配合した日焼け止め「アネッサ」（参考小売価格3150円、税込み）をPRした＝写真。イメージモデルにタレントの土屋アンナさんを起用。「太陽と生きていく。」をキャッチコピーにテレビCMも刷新する。

25日から5月10日までのゴールデンウイーク期間中は、県内リゾートホテルで試供品を配布。5月3日は国際通りで試供品を配る。

藤原さんは「女性だけでなく男性ゴルファーにも人気の商品。いち早く夏が訪れる沖縄で、観光客や地元の人に商品を使ってもらいたい」と話した。

生産活動などによる二酸化炭素（CO_2）排出を、植林や自然エネルギーへの転換などを通じてゼロに相殺する「カーボンオフセット」の事業展開を図るが、「まずは県内の環境意識を盛り上げたい」（安里氏）として、排出量算定や環境配慮型商品提案などの事業を総合的に進める。

事業PRや商品提案を宣伝が担当し、カーボンオフセットなどのコンサル業務をサティス社が担う。民間や官庁に排出量の算定・削減サービスを提案し、クレジット（排出権）の調達・販売も展開する計画だ。

土産品などで生産に要したCO_2排出量を記し、県民や観光客の意識を啓発する事業も検討する。

初年度は一千トンの排出量削減、仲介・相談などを通じた売上高で一千万円を目指す。

新日鉄、高炉休止を延長

日本鉄鋼連盟の宗岡正二会長（新日本製鉄社長）は22日、2月に休止した新日鉄大分製鉄所

働させない」と述べ、再稼働を当初予定していた5月中旬から延期することを明らかにした。

再稼働の時期について「（今のままの景気状況では）年内は難しいのではないか」とも指摘。大

2社が大分を含め計4基の高炉を休止中だ。

エムケイ札幌に参入

低料金で知られるタクシー会社、エムケイ

社長）は22日、札幌市白石区の本社
所式を行い、札幌圏での営業を始め
イ参入は福岡、大津両圏に続き８カ

開所式では平山社長が「札幌市民